

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 福喜多 寛

論 文 題 目

INNER MACULAR CHANGES AFTER VITRECTOMY WITH INTERNAL LIMITING MEMBRANE PEELING FOR RHEGMATOGENOUS RETINAL DETACHMENT

Similarity With Alport Syndrome

(裂孔原性網膜剥離に対する内境界膜剥離併用硝子体切除術後における網膜内層の変化およびアルポート症候群における その類似性)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

阿部 健治 

名古屋大学教授

委員

長 紀 恒 乙 


名古屋大学教授

委員

曾根 三千彦 

名古屋大学教授

指導教授

李崎 浩子 

論文審査の結果の要旨

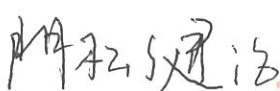

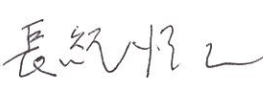

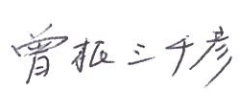

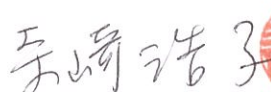

今回、裂孔原性網膜剥離眼における内境界膜剥離術併用硝子体切除術後網膜およびアルポート症候群患者網膜を光干渉断層計（Optical coherence tomography, OCT）を用いてその形態を画像解析した。その結果、網膜内層において耳側の菲薄化と鼻側の肥厚化が両者ともに生じた。また、中心窩-視神経乳頭間距離は網膜剥離術後眼の僚眼と比較しアルポート症候群眼、内境界膜剥離術併用硝子体切除術後眼において有意に短縮しており類似性がみられた。そのほか、内境界膜剥離併用術後眼、アルポート症候群の両者で網膜内層表面に視神経線維の走行に沿った dimple sign が見られた。これらにより、先天的、後天的問わず内境界膜の喪失は網膜内層に特徴的な変化を生じることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. OCT は生体眼より非侵襲的かつ簡便に網膜の詳細な画像を得ることができる。解像度は網膜 10 層を深さ方向に判別可能であり、形態変化を精密かつ定量的に計測可能である。また、得られた断面図を平面に再構成することにより平面の質的評価も可能である。
2. 本研究で用いた OCT は Spectral-domain OCT であり、硝子体をほぼ描出しない。従って硝子体切除術後眼と非術後眼において特に中間透光体に混濁が無い場合得られる画像に明らかな差異は無い。
3. 中心窩の周囲には黄斑があり、黄斑の中心に中心窩は存在する。OCT 画像において黄斑より中心窩へはすり鉢状の陥凹が見られ、陥凹の中心に存在する中心窩は網膜内層が無く ellipsoid zone の隆起している箇所である。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号	氏 名	福喜多 寛
試験担当者	主査  	副査  	
	副査  	指導教授  	
(試験の結果の要旨)			
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究においてOCTを用いる意義 2. 硝子体切除術後眼と非術後眼におけるOCT画像の差異について 3. OCTにおいて中心窩はどのように定義されるのか <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、眼科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>			